

戴帽式 答辞

第89回戴帽生代表 島田 紗吏

期待と不安を胸に抱き、新しい仲間とともに本校に入学してから早半年が経ちました。コロナにより会話もできず打ち解け合えないまま終わった入学式、親睦を深める機会となるスタディーセンターの研修やスポーツ大会の中止、初めての臨地実習の延期など今までにはない学校生活ではありますが、思い出や学びが沢山あります。

オンライン授業では、グループセッションを用いることが多く、初めは一人一人に壁があり画面越しではコミュニケーションをうまくとることができませんでした。しかし演習の授業が少しずつ始まり、対面して互いを知る機会が増えたことや、患者役看護師役になって様々な演習をしてきたことが、個々のコミュニケーション力の成長につながり、今では画面越しでも活発なセッションを行うことができました。

そして11月末にはいよいよ初めての臨地実習が始まります。看護師の動きや看護の現場を目の当たりにして声や足が震えるほど緊張するかもしれません。そんな不安をなくすために何度も重ねたい技術練習も、三密により全員が毎日取り組むことができない状況ですが、どんな困難な状況であっても仲間と協力し合い、何よりコロナ禍であっても実習を受け入れてくださることへの感謝の気持ちを忘れずに精進してまいります。

今年は災害による被害だけでなく、新型コロナウイルスにより精神身体ともに苦しんでいる方々が沢山いらっしゃいます。一日も早く明るい未来へと願うとともに、そういった人々の力になるために災害での授業の学びを実践できる力を身につけられるよう、頑張りたいです。

只今、私達は、赤十字の看護学生としてレッドクロスのナースキャップを戴きました。怪我や病気で苦しんでいる方々のわずかでも力になることができる看護職を目指すという決意のもとに日々自己研鑽に努めることを誓います。

まだまだ未熟な私達ですが、今後とも皆様の温かいご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。(一部割愛)

